

164
3/5

神道大教正小松雪山先生編輯

壁職業祖先記録

東京

尚古堂發兌

066436-000-5

特67-722

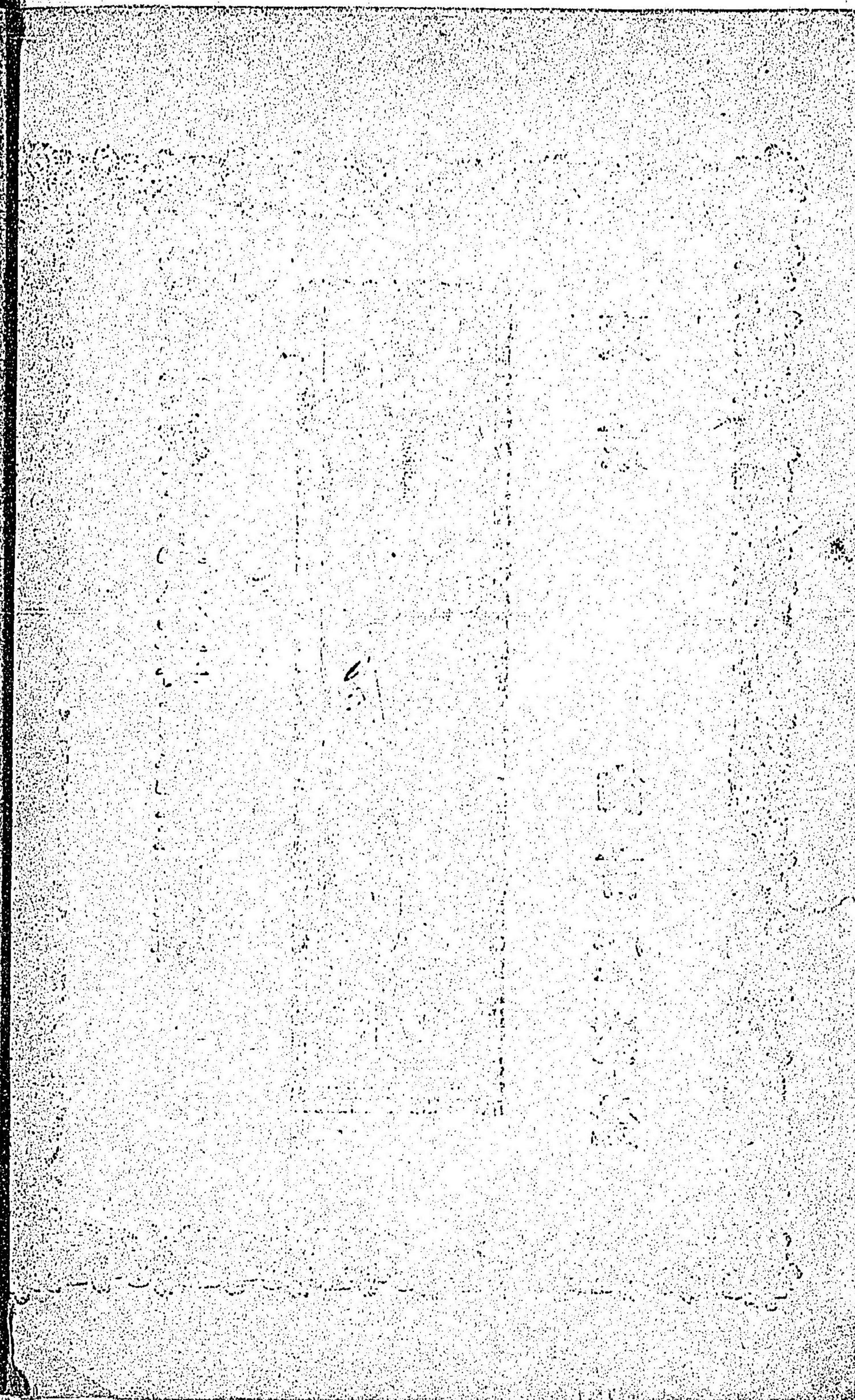
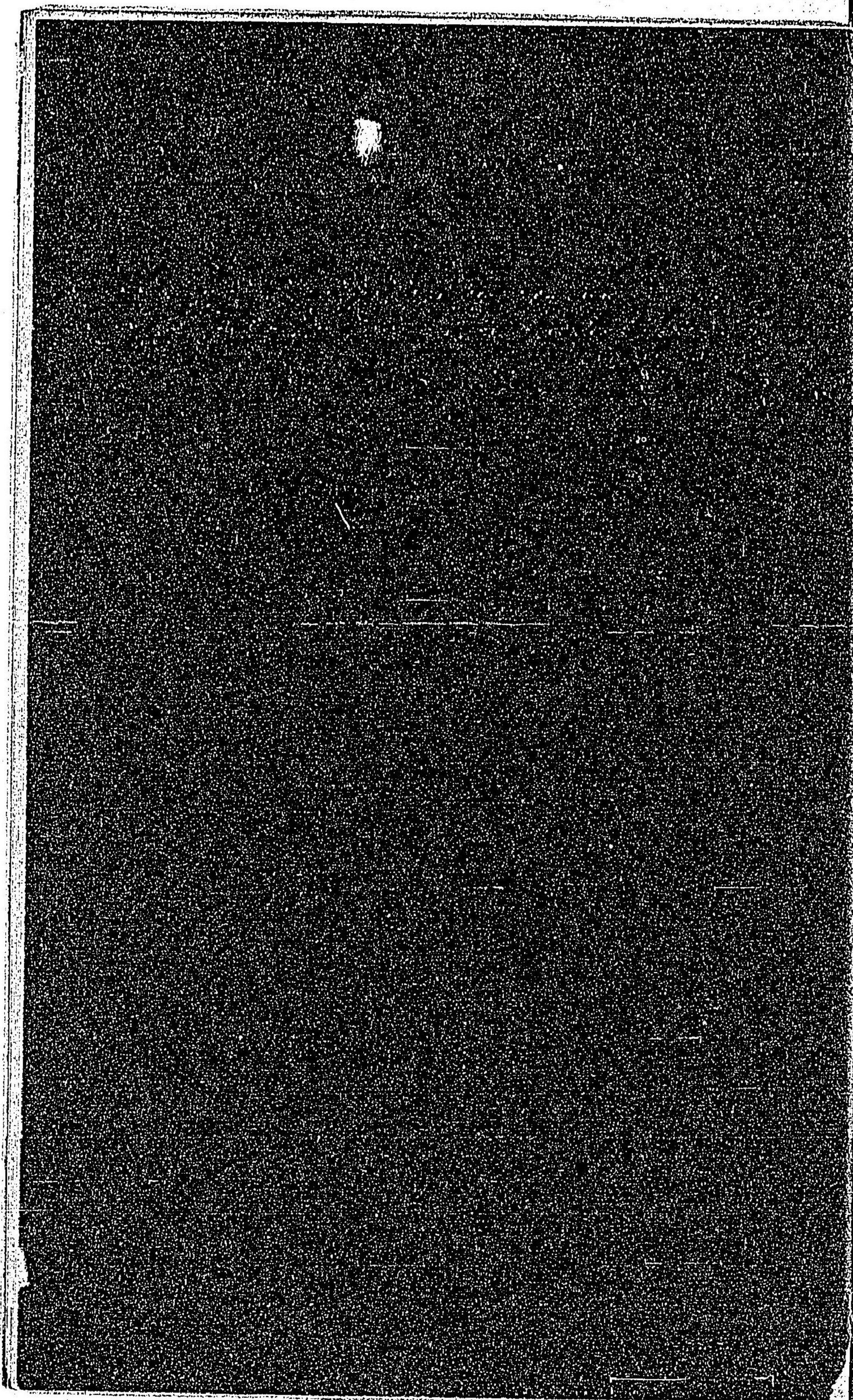
壁職業祖先記録

小松 雪山/編

M27.7

CDC-0020





壁職業祖先記録

抑も左官の祖先を委細に撰擇するに我が大日本

八代孝元天皇第一の皇子大昆古の命の生ませる子比古布

都押之信の命の生ませる子にて建の内宿彌の生ませる子

土師許勢小柄の宿彌は孝元廿八年甲寅にして帝國紀元四百

七年を起す時天大和の國瑞籬の都の御所の要所として

外郎廻り堅固ならしめんとして土師許勢小柄宿彌に仰せ議

て赤土を押し撫て初めて御所外廓廻り八方に土堀を造り以

給ふて官軍の安全を成し玉ふ

人王十四代仲哀天皇御宇

神功皇后二十年庚子に忍熊兄

神功皇后二十年庚子に忍熊兄



王謀叛して軍を起し是れ帝國紀元九百七十年なり 皇后土
 師許勢小柄の孫土師許勢眞壁連土師許勢土部直と申そ兄弟
 あり此の兄弟に仰せて大和の雅櫻の都に御所を造營し玉ふ
 時に外廓に土壁を造らしめ此の時眞壁土部等議りて筑紫の
 金工師伊斗材鍛冶に仰せて曲玉に凝らへて鉄を以て篋を打
 せて是れを職具にせりとみれ泥饅の初めにして則ち紀元一
 千三百令五年なり
 人王三十六代 孝徳天皇大化元己年に大和の國の岡本の
 都に初めて大内裡を御造營し玉ふ時外廓の堅固なる事と諸
 神に議りて土師許勢眞壁連の孫波多袁なるものに勅あり則
 ち波多袁祖先の業を續て衣冠を正して土壁を作り赤土白土
 に石灰を合練して塗り堅固にして且つ美麗にせんと泥饅以

て平馴しめん是れ土壁職業に榮譽を顯し此の太功に依りて
 祖先土師眞壁土部等に右官左官を賜り号そ是れ土壁白壁職
 の祖先なり
 土師左官許勢眞壁連 土師右官許勢土部直

大化五己酉年五月戊辰日 右中辨 奉

大和の國平河野に許勢神社と崇め奉りて式内の神なり此神
 の利益は國家安穩貴賤壽福火難盜難消除守護の神と崇敬し
 奉るなり 其後保元の頃震災にかゝりて灰盡となり社殿消
 滅せり惜むべきなり 且又右官土部家は絶せり左官許勢眞
 壁の家名今に至り一千二百有余年間連綿たりと謂ふ
 長祿二戊寅年に 太田道灌江戸城を築く
 永正十五戊寅年に 細川高國尼ヶ崎城を築く

大永元辛巳年に 足利義晴白河城を築く
 享祿八己亥年に 鉄砲初て日本に渡る
 永祿元戊午年に 京都二條城を築く 是れ勅建なり
 永祿五壬戌年に 信長岐阜城を築く
 是より諸國に城廓を築く事大ひに流行し依りて天正の頃より
 壁職業大ひに行れて盛茂せり
 壁職業に棟梁の名稱の初祖
 京都二條城建築壁棟梁
 土壁白壁業棟梁眞壁左官左二位上
 藤原重頼朝臣 花押
 許勢神社鎮座之次第
 左官許勢眞壁連神大化五己酉五月戊辰日

右官許勢土部直神 許勢波多袁 花押

人世に住めるは衣食住の三ツなり家屋は其の内の重大の一
 なり又城廓土藏庫倉は人たるもの、寶珍重器を入れ収め置
 て火災盜難を防ぎて萬年の安心を計るものたり建築工事は
 番匠の大工たりといへども其の堅固なる事を専務に充るは
 壁職業にありされば土藏倉稟府庫の建築になりては番匠大
 工と共に壁職業も棟梁たり故に上棟式に於ては必らず其の
 式を行事するは當然と謂ふべし

上棟式次第

兼日屋上を洒掃ひ神座を設け饌案を起
 剋限に大工并に左官等装束を着け新殿の前に進て列立せ
 清祓座を便宜の所に儲け幸木の枝に垂を付け案上に置く

官 右



許勢土部直神

七

官 左



許勢真壁連神

六

祓主着座して祓の詞を宣ふ宣べ了て大工左官各進み手を柏
 て幸木を取り身体を禊ひ亦列立せ
 先づ大工左官少工及び諸工を引率て新殿の屋脊に登り揖し
 て座に着く
 次に大工左官神前に進み再拜柏手兩段
 次に神饌を供ふ 次に大工左官奉幣
 次に大工上棟の祝文を宣る了て短手
 次に左官上棟の祝文を宣る了て短手
 次に大工左官以下再拜柏手兩段
 次に神饌を撤せ 次に各一揖して退下
 次に直會
 清祓詞

掛卷母畏伎稜戸乃大神等諸能枉事罪穢表祓給比清米給反刀申
 事之由乎天神地神八百萬神等俱爾平氣久安氣久安所聞食刀申須
 祝文

維某年号某年某月某日年我中爾月表撰毘月我中爾日乎撰毘日
 我中爾時乎擇毘氏上棟壽詞乎掛卷母畏伎眞壁土部神止稱辭竟
 奉累皇神等乃大前爾左官氏名諸乃工人等乃共爾集侍而天津奇
 護言步以氏言壽鎮止久此乃新室乎伊豆之眞合乃幸給比底津石
 根乃極美下津綱根波布虫能禍比無積高天原波青雲乃霽極美天
 千足飛鳥乃禍無久堀堅多流柱桁梁戸窓乃錯動鳴事無久引結反
 留葛目乃綾毘取葺流草乃噪無久夜目乃伊須須伎伊豆都志伎事
 無久平爾護給布御名表伐許勢眞壁連神土部直神波多袁神乃奉
 稱氏此舍乎堅磐爾常磐爾守給比福給爾依豆宇豆乃御幣乎捧奉

氏言壽鎮奉言乃滿落表波神直日大直日命見直聞直坐且平氣久
安氣久所聞食止鹿士物伊旬拜美畏美畏美母言
辭別而連神直神袁神乃大前爾白佐久參集反流諸能手人等我中
爾手蹟足蹟不令社不思穢咎過將有於伐見直之聞直坐氏已我
乘々不令在一心爾務米勤美打墨繩乃違思過事無久速久令卒業
給反刀畏々母白

右者東京市神田區紺屋町住人壁職棟梁小林新之助野中吉五
郎の兩氏積年懇望憑頼に依て謹て撰擇して之を授與せるも
のなり

明治廿六癸巳年五月戊辰日

神道實行教附屬易學教師

大教正 小松雪山箸述

發起人 東京市神田區紺屋町八番地 小林新之助

發起人 東京市神田區東紺屋町五番地 野中吉五郎

右者壁職業の祖神且つ左官の由來壁職業棟梁の原因調方に
永年苦心それとも何分勞するの功なし今や明治開明の盛大
に臨んで我が職業祖神何たる事を知らざるを彌々恥辱に思
ひ増々懇望止事なし天を祈り神を念し日夜苦心せる事幾歳
か風と祖神の尊影を得たり然れども縁起由來等なく是れに
苦心せる事又數年間博士に問ひ學士に迫り終に國學兼易學
士小松大教正に憑頼して祖神縁起由來を撰擇せる事を得て
初めて數年の大望茲に満足にせり依て廣く日本全國同業者
は申に及ばず東京市内各區組々の大家各君の御賛成あらん
事を希望す 明治廿六年五月日

讚		成		取		締		人	
櫻井善兵衛	全	小澤松五郎	全	松本久太郎	全	成瀬圓治郎	全	田川源治郎	全
野中吉五郎	全	小林新之助	全	佐原善太郎	全	荒井萬平	全	小林萬吉	全
櫻本榮藏	全	竹內金十郎	全	竹內平兵衛	全	石井仁兵衛	全	藤井鎌治郎	全
長谷川金八	全	淺井金太郎	全	乾忠七	全	內田金太郎	全	高澤吉五郎	全
神祖	副	幹	年	總	代	起	發	者	表
神田組左官	前田茂吉	小林八五郎	明治廿六年己五月吉日	荒井萬平	佐原善太郎	野中吉五郎	小林新之助	櫻井善兵衛	神田組左官取締表

十二

明治廿七年七月十六日印刷
 全 年 全 月 二十日 發行

定價金五錢

東京市神田區塗物町七番地

編輯兼 發行者 小松雪山

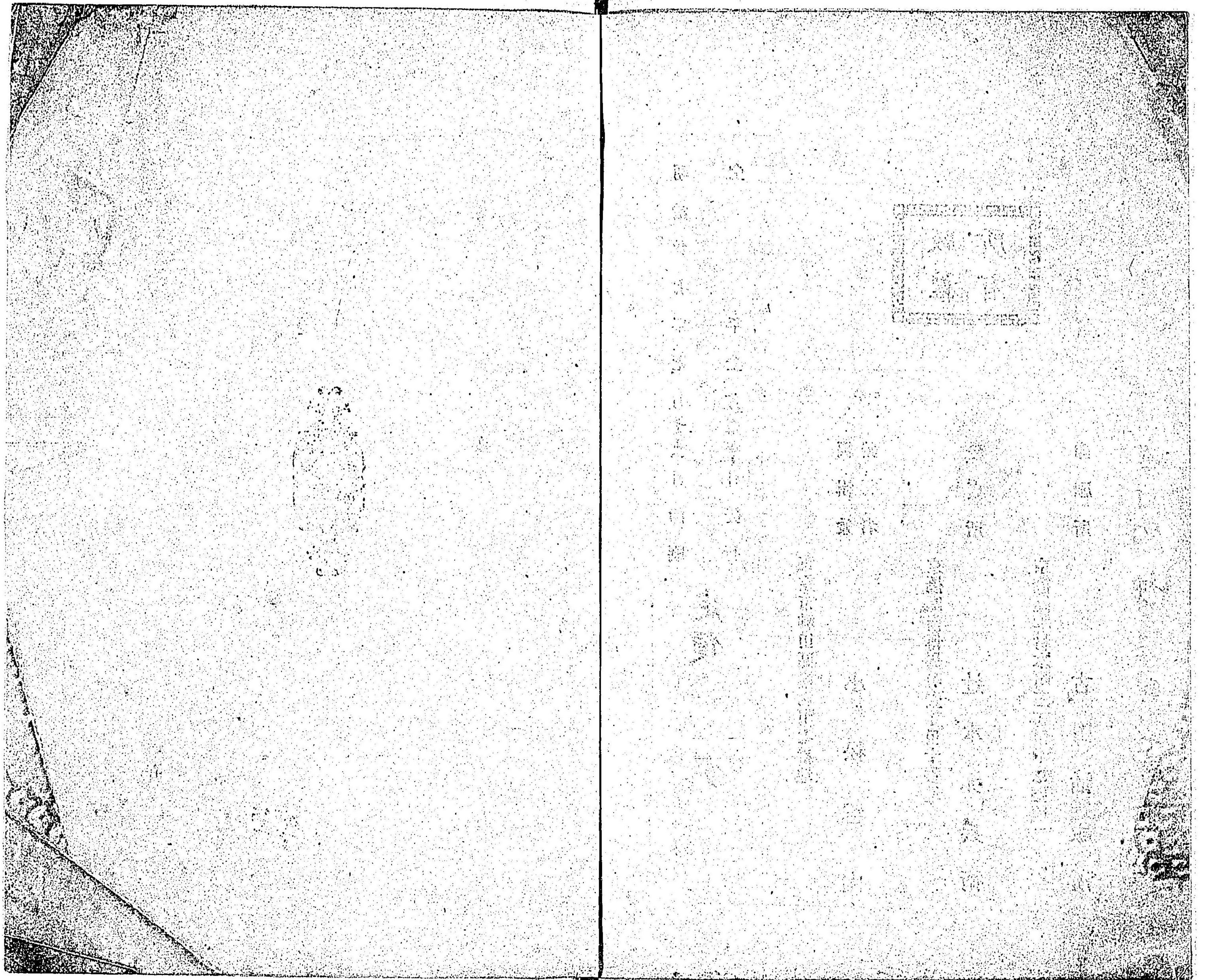
印刷者 辻本九兵衛

京橋區南傳馬町壹丁目十番地

印刷所 古田活版所

發行所 神田區塗師町七番地





27-11

